

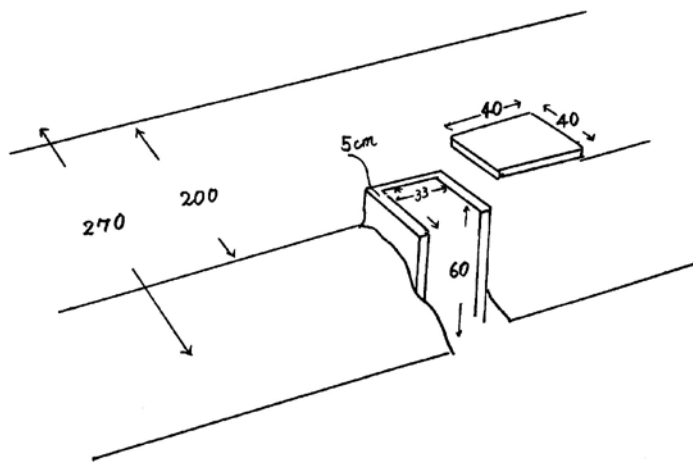
2 2 . 歩行中の事故

①水回り中、排水用溜め升に足をが落ち、左足副側靭帯損傷・断裂

(平成19年 8月 畦、女性・57歳)

営農組織の作業分担で前日バーチカルモアで畦草を別の人が刈り、ご本人は当日、水回り担当であった。前日の人が排水升の周りの草を残して、刈っていった。升の周囲の草丈は約30cm、前日の人がモアで刈った時、升のふた、約5cmの厚さをモアで押しやったらしく、ふたがずれていた。そのことを知らず、水周りをしていて、左足を深さ60cmの升の中に、落とし穴にはまるように落ちた。とりあえず車まで歩いて行って帰った。

病院へ行ったら、左脚副側靭帯損傷・断裂とのもので、石膏で固定、1ヶ月間。「入院」、と言われたが仕事が忙しくなる時期で、松葉杖をつき、他の人に職場まで送り迎えをしてもらって事務的仕事をこなした。現在は普通に歩くことができる。



* 事故原因

大きな作業単位で作業開始前に、法人全員で作業環境の確認、また作業手順などの確認が必要と考えられる。また、作業日報などで前日の行ったことについて、同じ場所で別の作業をする人に伝えることも必要と考えられた。特に、法人組織などで多くの人が関わる作業の場合に必要と考えられる。

②水田の水を止めようとして用水に足を踏み外して転倒、左足小指を骨折

(平成23年 5月 10時頃、用水、女性・34歳)

小雨が降っていたので、田植後の水田の水状況を確認し、水が多ければ用水口を止めようと朝9時頃家を出た。10時頃、四カ所目の圃場で水の確認をしようとした。

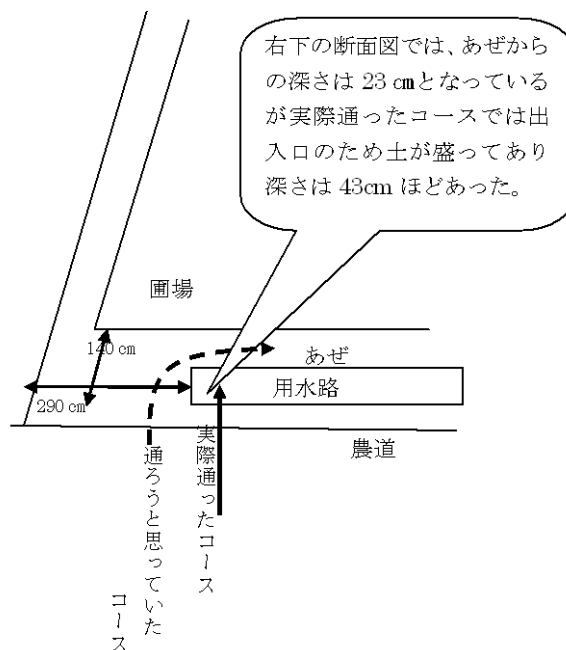
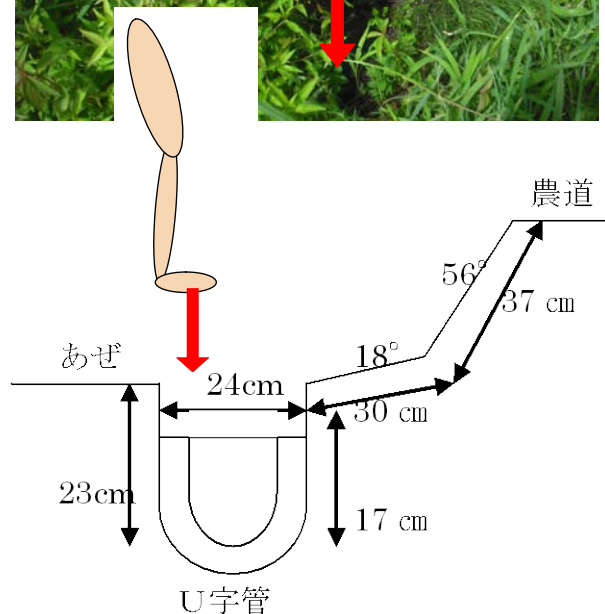
この圃場はU字管の用水路が24cmと狭い。さらに、長さ30cm程度の草が用水路を覆っていた。草で圃場と用水路の出入り口との区別がわからず、圃場の乗り入れ口と思いこみ左足から踏み出したところ、用水に落ち転倒した。用水に落ちた時、左足に重心がかかり左足の小指の付け根を骨折した。草が雨つゆで濡れていたため滑りやすかった。

事故後強い痛みと脂汗が出たが骨折しているとは思っていなかった。移動に使っていた軽ワゴン車に乗って帰ろうとしたがマニュアル車であり、左足でクラッチを踏めないことから携帯電話で母親に電話して迎えに来てもらった。事故発生から20分後位には近くに診療所に行きレントゲンをとってもらった結果、左足第5趾骨折で、総合病院を紹介され、総合病院へは母の車で移動。事故後1時間20分後に到着し治療を受けた。

*** 事故原因**

この圃場は自宅から6.5km離れたところにある借地である。10年以上前から耕作している圃場で、乗り入れ口の場所には慣れている。

当日はあせったり、急いでいたわけではないが、車から降りうっかり乗り入れ口と思って左足を踏み出したところが用水路であった。用水路が狭く草が用水路に覆いかぶさっていたため、圃場の乗り入れ口と勘違いしてしまった。出来るだけこまめに草刈をすることとした。また、用水を



十分確認して畦に入ることとした。

畦草を刈り終え、側溝の縁を歩いていて、足を側溝に落としアキレス腱断裂

(平成20年 4月 11時頃、用水、男性・59歳)

10時頃から畦草刈りを開始。一カ所の草刈りを約1時間ばかり終えて、次いで事故現場の畦の草刈りを約30分で終了。畦を歩いていて、側溝に右足を落として、アキレス腱を断裂した。

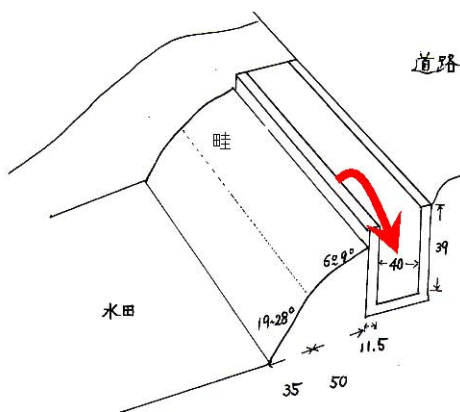
事故時、落ちた右足に全体重+刈払機の重さがかかる。切れた直後、「なんだか変だなあ」との感覚しかなかった。ちょっとした違和感があったのみ。家には、軽トラックに乗って帰る。約300m。

家に帰ってから息子に電話して、整形外科医院に行ったが、レントゲンの調子が悪いとのことで、総合病院に行く。当直医は皮膚科であったが、レントゲンを撮りとりあえず、アキレス腱断裂を確認。

翌日、月曜に改めて息子に連れていってもらい受診、即、夕方から手術、入院約2ヵ月。現在の状況、右足親指が思うように持ち上がらず、どうも調子が悪い。29歳の時、工場プレスで左手、第1～3指をつぶしてしまった。

ご本人は、手の具合が悪くても草刈りなど普通にやっていると言われたが、おそらくかなり体に負担をかけた状態での草刈りをしておられ、通常以上の疲れがあると思われる。

草刈り直後、「ああ、終わった～」と、気が緩んだため、と言われた。



草刈りを終え、草刈機を持って、幅11.5cmのU字溝の上を歩いていて、幅40cm、深さ39cmのU字溝に右足を落とし、アキレス腱断裂。

* 事故原因

過去に怪我をした左手が不自由であるが、ご本人は、特に問題ないとされている。しかし、実際には左手の方は、刈払機を抱えるようにされており、傍目からはかなり不自然な姿勢であり、体に無理がかかっているように思えた。

このように、少々の障害を抱えても、他に替わる人がいなければやらざるを得ないのが、農作業の現実である。これは、高齢になっても同様で、替わる人がいなければ体に無理をかけても行わざるを得ない。

なお、U字ブロックと畦との間に長年の風化でかなりの段差があり、通常の歩行でも綱渡りのようなものである。もし、畦とU字ブロックに段差がなければ、水平に歩くことができ、事故にならなかった可能性もある。

④畑の坂で転び、足を骨折

(平成21年 7月 7時頃、畑、男性・78歳)

夜半は雨であったが、朝方やんでいたののでトマトの手入れをした。朝食のため、家に戻ろうとしたとき、高さ84cm、傾斜地の長さは、180cm、斜度40.2度のところで滑って転んだ。

当時は、階段は特別のものは作ってなかったが、坂の土を鍬で削って3段ぐらいの簡単な階段が作ってあった。その坂を下りるとき真ん中より下の方で滑って転んだ。井戸で足を洗って家に入った。

何か違和感があったが、特に歩けないこともなく、そのまま家に入り、食事をし、その後また、畑に出てトマトの世話をした。その日は、金曜日で受診することもなかった。土日は竹で杖を作って、それを支えに使っていた。

しかし足が腫れてきたので、月曜日に自分で運転して病院を受診。診察、レントゲンで骨折が確認された。左足関節外顆骨折、即入院、夕方手術、8日間入院、退院してからも通院、1ヶ月治療に通った。なお、入れた金属は別の先生が、「抜かないとMRIなどの検査が必要になっても、撮影できなくなる」といって、再び手術をして取り除いた。

